



ARIMASS Letter

[Association for Risk Management System Studies]

危機管理システム研究学会 2004年11月
特集号

新しい論文制度の発足に際して

危機管理システム研究学会常任理事

鈴木敏正（株日本総研）

2000年に発足した当研究学会も、4年が経過しました。この間、海外ではその後の国際情勢を大きく変化させたNY同時多発テロが発生し、各国の危機管理システムの有効性が試されることとなりました。国内では毎年のように数多くの自然災害が起り、様々な組織での危機管理能力が問われました。また企業事故も多発し安全と危機管理についても大いに議論されました。加えて、様々な社会システムのうち、とりわけ重要な金融システムに関して、その健全性維持と危機管理という課題も浮上しました。企業における雇用環境、制度変更の中で、コンプライアンス、内部告発についても広く認識されるようになりました。このような時代背景の中、当研究学会に寄せられる期待も変化してきております。これは、危機管理システムの構築という、いわば危機管理方法論の開発と啓発の段階を経て“当事者・関係者の被害・損失の軽減”を如何に図るか、という課題に因るため、“あらゆる知恵を結集する場としての学会”への期待です。最近そのような期待を反映するかのように様々な人々、例えば法制度、医療制度、治安維持制度、各種社会システム等に関係する人々からの当学会への協力要請、参加申し込みが多くなっています。また、当研究学会の論文は、様々な専門分野、領域、対象あるいは立場を超えた人々・組織で議論・評価されるようになってきています。一方、論文には、専門分野を超えて評価され得る分かりやすさと、質の確保が必要です。今回年次大会発表論文と区別して、新しい論文制度を設けました。新しい論文制度の最大の特徴は査読の本格的な導入です。様々な内容の論文に対する的確な評価のために、場合によっては学会外部の方への査読依頼も行なわれます。この制度の発足に伴いこれまでの年次大会における報告文を“報告原稿”、後掲する“論文投稿の手引き”に従って執筆されたものを“論文”と、今後は呼称します。会員の皆様におかれましては、この新しい論文制度設立の趣旨を理解されると共に、“リスクから発生する被害・損失を最小化し、リスクに強い社会的基盤すなわちリスク対応組込型社会システムをつくり上げて安心と幸せにつながる社会を目指してまいります”という当学会の設立目的を今一度思い起こしていただき、積極的に論文応募をしていただきたいと思います。

目	次
新しい論文制度の発足に際して……………1	論文投稿の手引き……………2
年次大会のご案内……………2	事務局からのお知らせ……………6

第 5 回年次大会報告者募集および論文募集要項

危機管理システム研究学会の第 5 回年次大会を 2005 年 5 月 28 日(土)に東京医科歯科大学において開催することに決定いたしました。つきましては会員の皆様の積極的応募をお待ちいたしております。なお、本発表会は危機管理システム研究学会大会の一環として開催されるものです。

第 5 回年次大会 研究報告 開催要領

開催日時:2005 年 5 月 28 日(土曜日) 10 時から 17 時(発表会終了後懇親会)

開催場所:東京医科歯科大学(東京都東京都文京区湯島 1-5-45)

発表論文募集要項

アブストラクト募集

(ア) 日本文、英文併記の論文タイトル

(イ) 日本文 600 字までの論文要旨

(ウ) 締切日 2004 年 12 月末日厳守

送付先:危機管理システム研究学会 事務局担当 阿部宛

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-3-7 電話 03-5753-0080 Fax 03-5753-0086

e-mail:arimass@muh.biglobe.ne.jp

A4 の用紙に横書きで上記項目と著者名、所属先を明記の上、学会事務局まで e-mail または Fax で送付願います。なお、アブストラクトは学会理事会に設置します論文審査委員会で審査を行い、採否の通知を応募者に直接行います。採用された論文の著者には、本論文の作成要領も同時にお知らせします。

本論分募集概要:締め切り日時:2005 年 2 月末

原稿用紙:A4、6 枚程度

論文投稿の手引き

危機管理システム研究学会編集委員会

1. 投稿者

投稿に当たって、投稿者のうち最低一人は、当学会の会員であること。

2. 原稿提出期日

原稿は毎年 6 月末日に締め切ります。

受付けた原稿は原稿台帳に登録され、査読に入ります。

3. 投稿原稿

3.1 投稿区分

論文集には、) 論文、) 委員会報告の投稿区分があります。

3.2 論文の具備すべき条件

論文の具備すべき条件としては、

1) 正確であること

2) 客観的に記述されていること

3)内容、記述について十分な推敲がなされていること

4)未発表であること

5)他学協会誌等へ二重に投稿していないこと

の5点が挙げられます。なお、4)に関しては、既に発表した内容を含む原稿でも、次のいずれかの項目に該当する場合は、投稿を受付けます。

1)新たな知見が加味され再構成された論文

2)限られた読者にしか配布されない刊行物、資料に発表された内容をもとに、再構成されたもの個々の論文がこれらに該当するか否かの判断は編集委員会で行います。この判断を容易にし、また正確を期すため、投稿に当たっては、既発表の内容を含む場合、あるいは関連した内容の場合には、これまでどの部分を、どの程度、どこの刊行物に発表してあるかを論文中に明確に記述してください。

なお、一つの論文は、それだけで独立した完結したものでなければなりません。非常に大部な論文を連載形式で掲載するということとはできません。

3.3 論文のまとめ方

原稿は次のようにまとめてください。

1)目的を明示するとともに、重点がどこにあるかが容易にわかるように記述してください。

2)既往の研究との関連を明らかにしてください。すなわち、従来の研究のどの部分を発展させたのか、どのような点がユニークなのかを示してください。

3)原稿は要点をよく絞り、簡潔に記述してください。

原稿は、例えば次のような順序で記述するとよいと考えられます。

目的

方法

結果と考察

結論

4)論文のタイトルは簡潔で、その内容を十分に明らかに表現するものとしてください。原則として30字以内(英文15ワード以内)とします。長い論文を分割して、その1、その2、・・・とする連載形式は認めません。

3.4 要旨、キーワード及びE-mailアドレスについて

1)要旨は、和文論文では和文と英文の両方を、英文論文では英文のみをそれぞれの言語で簡潔にまとめ、所定の場所に付けること。

2)内容を十分に表すキーワードを英語で3～5個選んで所定の箇所に記入すること。

3)必要な場合には、E-mailアドレスを記入してもよい。

4.査読

4.1 査読の目的

投稿原稿(論文)が、当学会論文集に掲載される原稿として、ふさわしいものであるかどうかを判定するために査読が行われます。査読に伴って見出された疑義や不明な事項について修正をお願いすることがあります。

ただし、原稿の内容に対する責任は本来著者が負うべきものであり、その価値は一般読者が判断すべきものであります。

4.2 査読員

査読は編集委員会の指名した査読員が行います。原則として論文は2名の査読員によって行なわれます。

4.3 査読の方法

4.3.1 評価

査読に当たり、投稿原稿が当学会が対象とする分野においていかなる位置づけにあるか、新しい観点からなされた内容を含んでいるか、研究成果の貢献度が大きいのか、等の点について以下の項目に照らして客観的に評価します。

(1)新規性：内容が公知、既発表または既知のことから容易には導き得るものでないこと。たとえば、以下に示すような事項に該当する場合は新規性があると評価されます。

- a) 主題、内容、手法に独創性がある。
- b) 学界、社会に重要な問題を提起している。
- c) 現象の解明に大きく貢献している。
- d) 時宜を得た主題について総合的に整理し、新しい知見と見解を提示している。

(2)有用性：内容が、リスクマネジメント、危機管理、その他当学会が対象とする分野において、実用上何らかの意味で価値があること。

(3)完成度：内容が読者に理解できるように、簡潔、明瞭、かつ、平易に記述されていること。

この場合、文章の表現に格調の高さは必要としないが、次のような点についても留意して評価します。

- a) 全体の構成が適切である
- b) 目的と結果が明確である
- c) 既往の研究との関連性が明確である
- d) 文章表現が適切である
- e) 図・表がわかりやすく作られている
- f) 全体的に冗長になっていないか
- g) 図・表等の数が適切である

(4)信頼度：内容に重大な誤りが無く、また読者から見て信用の置けるものであること。

- a) 重要な文献が落ちなく引用され、公平に評価されているか
- b) 従来からの研究成果との比較や評価がなされ、適正な結論が導かれているかなど

4.3.2 判定

4.3.1での各項の評価に基づき、その内容が水準以上であれば掲載「可」とし、掲載するほどの内容を含まないと考える場合、および掲載をすべきでない場合は「否」とする。

論文の場合

誤り

- a) 理論または考えのプロセスに客観的・本質的な誤りや論理的矛盾がある
- b) 計算・データ整理に誤りがある
- c) 現象の解析に当たり、明らかに不相応な理論を当てはめて論文が構成されている
- d) 都合のよいデータ・文献のみを利用して議論が進められ、明らかに公正でない記述により論文が構成されている
- e) 修正を要する根本的な指摘事項をあまりにも多く含んでいる

既発表

- f) 明らかに既発表とみなされる

- g) 連載形式で論文が構成されており、独立した論文と認めがたい
- h) 他人の研究・技術成果をあたかも本人の成果のごとく記述して論文の基本が構成されている
レベルが低い
- i) 通説が述べられているだけで新しい知見がまったくない
- j) 多少の有用な資料は含んでいても論文にするほどの価値は全く見られない
- k) 論文にするには明らかに研究レベルがある段階まで進展していない
- l) 着想が悪く、当然の結果し得られていない
- m) 研究内容が単に他の分野で行われている方法の模倣で、全く意義を持たない
内容全体・方針
- n) 政策的な意図、あるいは宣伝の意図がきわめて強い
- o) きわめて偏った先入観にとらわれ原稿全体が非論理的に記述されている
- p) 理論的または実証的な論文、あるいは事実に基づいた報告でなく、単なる主観が述べられているに過ぎない
- q) 私的な興味による色彩がきわめて強く、論文集に掲載するには問題が多い
- r) 学会としての本来の方針、目的に一致していない

4.3.3 登載の条件

登載可否の判定は、2名の査読結果に基づいて編集委員会で行います。登載は原則査読委員2名共が可としたときにのみ許可するものとします。その際、査読員からの修正意見があれば、論文委員会で検討の上、修正依頼を行います。修正意見に対して著者が十分な回答を行ったかどうかは、論文委員会で判断します。必要があれば修正意見を出した査読員に再査読をお願いすることもあります。

【編集後記】

今号は、論文制度の発足に当たっての特集号です。冒頭の鈴木敏正さんの記述にあるとおり、当学会では、年次大会発表論文をそのまま論文集として発刊していましたが、査読制度を導入し、本格的な論文を発表できる場としての体制を整えました。掲載いたしました、「論文投稿の手引き」に従い、多くの方が論文応募されることを期待します。この制度導入に関しましては、前記鈴木さんに大変、ご努力いただきました。改めて御礼申し上げます。

北沢 義博

<事務局からのお知らせ>

1.分科会連絡先

教育実践分科会：主査：後藤和廣、 .03-3291-8921 / Fax.3291-8930 e-mail:gotokaz@aol.com

RMS 分科会：主査：指田朝久、 .03-5288-6584(直) / Fax. 03-5288-6590

e-mail:t.sashida@tokiorisk.co.jp

リスク事例サロン分科会：主査：島田公一、 .03-5789-7224 / Fax.03-5789-6680

e-mail:ko-shimada@ioi-sonpo.co.jp

国際交流分科会：主査：荒木秀夫、 .045-921-7695 / Fax. 045-540-5310

e-mail:araki.hideo@jp.panasonic.com

メディカルリスクマネジメント分科会：主査：寺本 研一、 /FAX03-5803-5929

e-mail:teraken.srgl@med.tmd.ac.jp

2.新入会員紹介

氏 名	所 属 機 関
三宅 弘子	KPMG ビジネスアシュアランス(株)
内田 知男	銀泉リスクコンサルティング(株)
加藤 富三	バイエル薬品(株)
関 隆芳	三井金属スタッフサービス(株)

3.住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には変更前と変更後を並記のうえ必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

4.訂正とお詫び

会報18号の新入会員紹介で愛繁美氏の氏名表示と職名に部長の表示に漏れがありましたので訂正とお詫びを致します。

発行 危機管理システム研究学会

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-3-7

アバンネット南大井ビル (株)リムライン内

.03-5753-0080 FAX. 03-5753-0086

e-mail: arimass@muh.biglobe.ne.jp

2004年11月25日発行

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

印刷 株式会社 文典堂 03-3762-0721